

?

ハザードマップとは

「自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、災害想定区域や避難場所、防災関係施設の位置等を表示した地図」です。

作成の目的

近年、集中豪雨等による水害が頻発していることから、福岡県では新たなシミュレーションに基づき各種災害想定区域図を公表しました。そのため糸島市では、ハザードマップを新たに作成し、全戸に配布します。

災害時の被害を最小限にするためには、日頃から自宅やその周辺が災害想定区域にかかっているかなど氾濫時の危険区域等を確認しておくことや、最寄りの避難場所や避難経路について把握しておくなど、災害が起きる前に正確な情報を知っておくことが何より重要です。

また、大雨や台風などが近づいているときは、気象情報や河川情報を注視するとともに、市からの各種災害情報を取得できるようにしておくことも必要です。そういう日頃からの学習や心構えにより、円滑かつ迅速な避難を確立し、被害の軽減を図ることができます。

このマップを活用していただき災害時の避難行動等にお役立てください。なお、災害想定区域に指定されていない区域においても災害が発生する場合や、想定される浸水深が実際の浸水深と異なる場合があります。



ハザードマップの利用方法

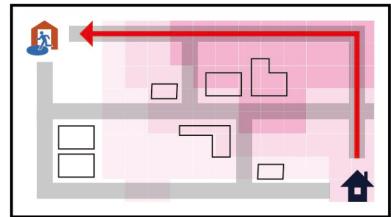
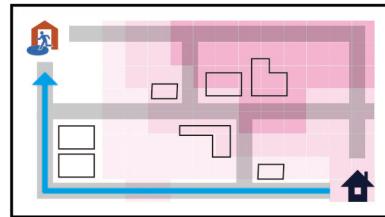
1 自宅付近の災害想定を確認しましょう。

自宅がある場所は何色に塗られていますか？浸水想定の深さを確認してください。次に、自宅付近の避難場所等を確かめましょう。

小さな河川・水路の近くなどは、着色されていなくても浸水するおそれがあります。



2 浸水想定が深い場所や、危険な箇所を避けて避難経路を設定しましょう。



3 家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。

避難経路に危険な箇所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

側溝や雨水ますの集水口（グレーチング）に落ち葉などが詰まると、浸水の原因となります。

日頃からの清掃にご協力をお願いします。

